

第 13 回社会保障審議会統計分科会疾病、傷害及び死因分類専門委員会（ICD 専門委員会）

呼吸器 WG 進捗状況報告

呼吸器 WG：鈴木 勉、 滝澤 始

1. 構造変更

呼吸器 WG は非常に遅れていたため、2012 年 5 月に Co-chair の橋本修教授が Chair の Prof. Ingbar と協議し、日本呼吸器学会が主導で行うことで同意が得られた。6 月から日本呼吸器学会が Ms. Cumerlato と連絡を取りながら構造変更を行い、急ピッチで作業が進められた。8 月末までに Diseases of the respiratory system の Level 2 の提案は終了し、Level 3 以下もまだ不十分な点はあるが概ね終了している。

- ① Rare Diseases TAG と Overlapping している Other respiratory diseases principally affecting the interstitium 中の ARDS や特発性間質性肺炎、Idiopathic eosinophilic pneumonia の扱いについて、Rare Diseases TAG と意見の相違があり、呼吸器 WG として変更の要望を出していたが返答が来ないため、9 月に再度の確認を依頼した。
- ② 8 月末に内科 TAG の Co-Managing Editor を介して Paediatric TAG からの構造の追加変更依頼が来た。小児科領域は内科とは違った病態があるうえ、Rare Diseases TAG にかかわる部分も多くあった。9 月に呼吸器 WG の検討結果を Paediatric TAG に返答した。10 月にこれに対する Paediatric TAG のコメントが戻ってきた。意見の一致しない部分があり呼吸器 WG では再検討し、その結果を内科 TAG を介して Paediatric TAG へ返答した。なおこれらには①にかかわる疾患分類も含まれており、これに関しては Rare Diseases TAG への連絡も依頼した。

10 月末現在、①、②ともにその返答待ちである。

2. Definition

日本呼吸器学会用語委員会が中心となって、Level 3（一部 Level 4）の Definition 作成の作業が進行中である。10 月末現在、約 140 項目の呼吸器 WG で作成可能な Definition を新たに作成した。iCAT への入力は今後から依頼となる。上気道の部分の Definition に関しては耳鼻咽喉科、高橋姿 ICD 専門委員に協力をお願いしている。

3. オーバーラップエリア

肺循環、肺腫瘍は基本的には循環器 WG、腫瘍 TAG の提案を尊重したい。間質性肺疾患の領域は Rare Diseases TAG やリウマチ WG との調整が今後にも必要になる。

感染症の部分も Infectious diseases と整合性が必要で ICD-11 β の Web を確認し作業するようにしている。